



西中学校通信

第13号

自主的に考え、正しく行動できる生徒

＜自立と自律＞

もうひとつの「北風と太陽」

イソップ童話の「北風と太陽」の話です。

北風と太陽が、自分の力の強さについて言い争っていました。そこで、力試しをしようということになり、ちょうど通りかかった旅人のコートを脱がせようとしています。はじめに、北風が、旅人のコートを脱がせようと、カー杯、吹きつけますが、旅人は寒いため、コートをしっかりと握って押さえました。次に、太陽がカー杯照りつけると、旅人は暑くなり、コートを脱いだという話であり、とても有名なため、多くの人が知っていることと思います。そして、この話の教訓として、「温かいことが大切」であり、「厳しいこと」は、悪いことのように伝えられています。

実は、この話には続きがあり、もうひとつの「北風と太陽」の話として伝わっています。

北風と太陽は、次に、旅人の帽子を脱がせる勝負をしました。

はじめに、太陽が力いっぱい照らすと、旅人は暑くてたまらず、日差しを避けようと帽子をより深くかぶり、けっして脱ごうとしませんでした。

次に、北風が、力いっぱい吹き付けると、旅人の帽子は、簡単に吹き飛んでしまいました。

この2つの「北風と太陽」の話がセットであったなら、この2つの話の教訓は、何なのでしょう。

太陽が「温かさ」、北風が「厳しさ」を象徴しているのであれば、「温かさ」も「厳しさ」も対人関係には必要なことであり、時と場合によって使い分けることが大切であるとの教訓も成立します。

人に対する優しさには、多くの形があると思っています。大切なことは、相手にとって、今、必要な優しさの形を考えることだと思っています。誰が見ても「優しい」行動であっても、時と場合が間違っていれば、その人が成長する機会を奪ってしまうこともあります。一時的で、見かけだけの「優しさ」は、相手のためにならないこともあるのです。

人は、認められ、ほめられて成長しますが、ときには、厳しさというスパイスにより、道を間違えず、大きく成長することもあります。

「厳しさ」という形をとる優しさは、今の世の中では、批判されることも多いため、自分の中に「強さ」が必要です。本当の意味で、優しい人になるということは、自分の中に「強さ」をもっている必要があると思います。

西中生の活躍

- 埼玉県書き初め展 特選 1名
- 狭山市書き初め展
 - 特選 <3年生> 1名
 - 金賞 <1年生> 3名
 - <2年生> 3名
 - <3年生> 1名
 - 銀賞 <1年生> 7名
 - <2年生> 7名
 - <3年生> 8名
- 狭山市バレーボール1年生大会
 - 優勝 バレーボール部
- 埼玉県ジュニア選手権バレーボール大会（市町村選抜チームの大会）
 - 4位 狭山市選抜（本校選抜選手3名）

あいさつ運動

令和6年1月9日に、生徒会本部による「あいさつ運動」が実施されました。この日は、事前にボランティア参加の呼びかけができず、生徒会本部だけで実施しようと考えていたところ、当日、登校して気づいた人たちが、急遽、参加してくれました。参加してしてくれたのは、以下の人たちです。

ありがとうございます。

- <1年生> 19名
- <2年生> 8名

学校現場体験(インターン)

埼玉県では、4月から教員として教壇に立つ人の学校現場体験活動を実施しており、本校にも、1月22日から本日まで1名が来校していました。

その人は、狭山市内の中学校の出身であり、理科の教員になります。西中学校の教員の手伝いをしながら、教員の仕事について体験的に勉強しました。良い教員になることを願っています。